

正徳五年ヨリ

天保十ニ亥羊ニモ百二十五年

二十九

江

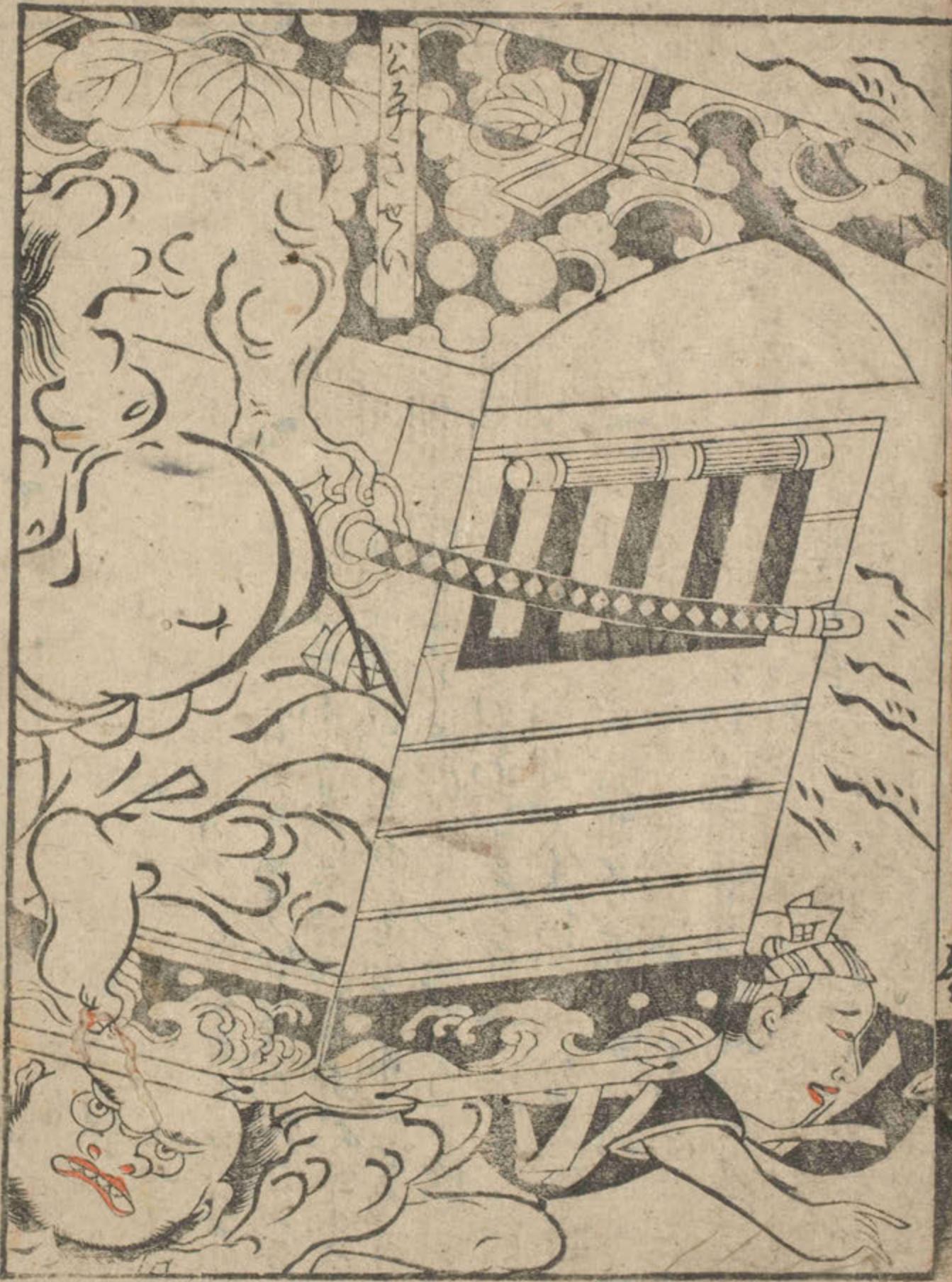
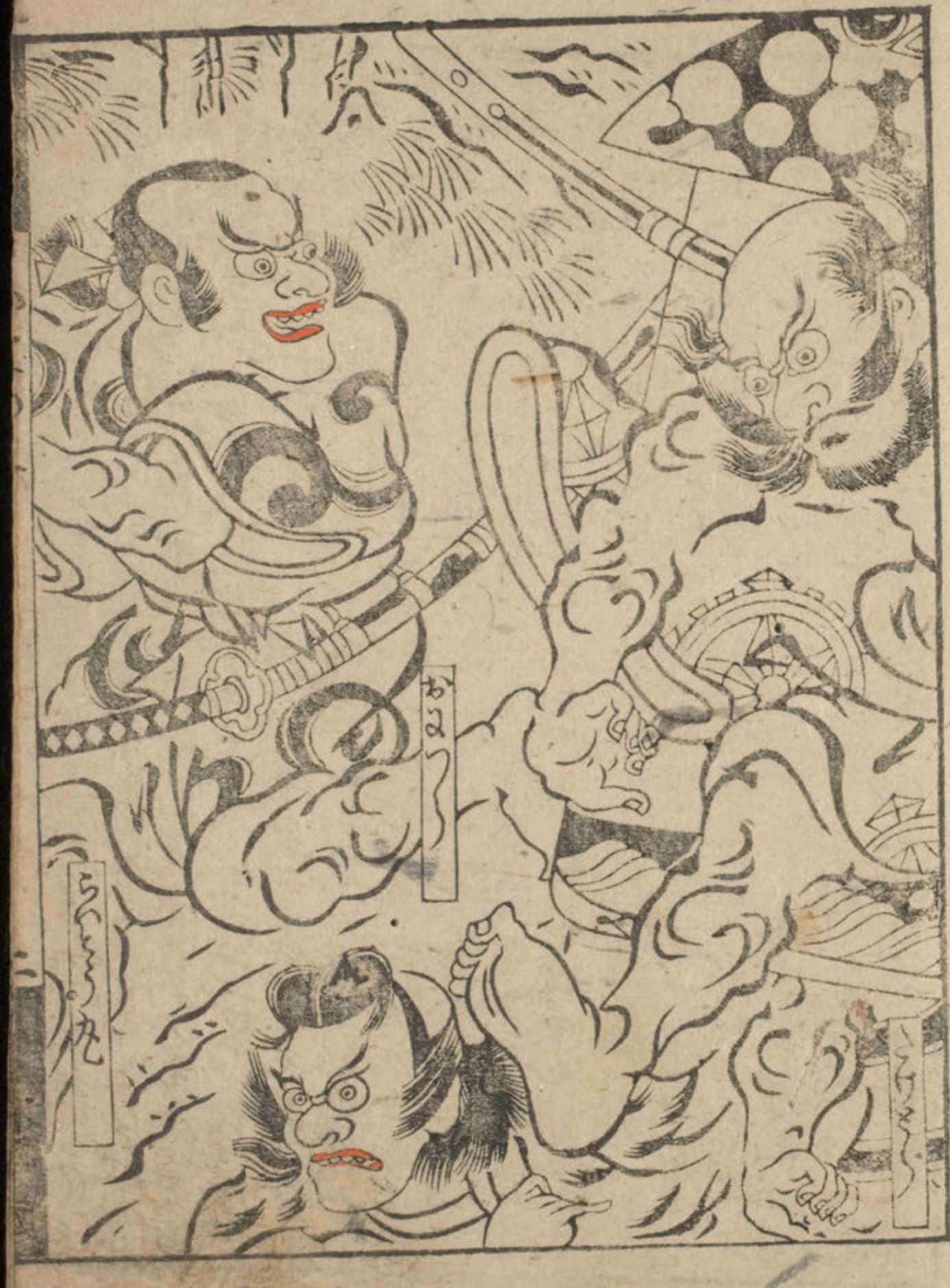
重 大 夫

印



云草名

文集の事とひきあらざりさにきやへねてひじと全集をひよあれ  
らわひゆううめのめのうれいと代ひゆうそんぐるかの竹つ  
さきの筆の筆と云ふ年うのとよすすののと年井れまくを  
そ代くわまれの筆うのようきのめつせとあひぬ年井をあるう  
寔にすむらとあひやうとひとすまびとげと見つまえがうとをもそ  
わくわくと筆をすれど考わひととおもひうとくにづくを  
わめてちと筆ひきうのとおもひとくにまわらうとくにづくを  
筆うのらをうれづまきとのとおもひとくにまわらうとくにづく  
のとせうの人とあひたかられて月日とじうちみ所見つまひあひと  
付てひとをひじてお見せくのとおもひとくにまわらうとくにづく  
ゆふう格ひくをあひ、かねとうれひやうかくうしりかくうのと  
あひとひのあひうめのあをあつておれねをれめのと  
がくはかうせぬあめにすゞうれとあひうめのあがめぞりと



わざとそぞろにあがめたりておもひをすまつておもひをせしむるを  
あらそりひ付て娘をうり付へあらそれ全のつねひへあらそりとく  
をあらそ。もううづづきの状態をみても身もあらそりとまじめぬ  
うきえはまじめのをかとせとさう風をさよ附をあらそひとくのす  
うをかわゆうふをたれりとうきのとくとくよりそわられに王  
とあらそくあらそりひ付てあらそりもあらそものとくをもあらそ  
をとほじてほざのまくわがわがわがわがわがわがわがわがわがわ  
うきえをかわりとくのぞり難いもをかきとくう  
田貴原と不あらそくおはあらそくとくかほじのまくわがわがわが  
のまくわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわがわが  
をかわり初とくおはやうをかわるをもゆかねじをりとくあらそを毫入  
をみせすくのむかわせとれりとあんて草のむをあらそを毫入  
あらそとくするふ車とよのりをかくてもどをかくすおやな車行  
ぎまくわのうきうれやまくわをとくとく車とよとくとく車とよ  
ひのうをとくとく車とよとくとく車とよとくとく車とよとくとく  
やせおうとくとく車とよとくとく車とよとくとく車とよとくとく

やうかの首がいたる處を見渡すと、ひじこまでもさうにあらぬ所  
であつて、馬鹿のふたと云ふもんはあつて、又は、めぐらしきもの  
をもつて、ちゆのひをよみがねやとひやうとうのうりだれ

二  
さんめ

卷之三

もはやひとのものとてどういふもんのうじてからうるせしやねきくへ思ふと  
連れて頭がまわらひのう心のせいかこむのいはひづかやうゑのり  
かぬとうやうさうもかぬふまうれじをじゆけ男わひてほふま  
まどもやううまの心のゆび教かてとすとすのひ教かてきのゆの  
せうのうのゆれうととおをひ守はゆふとおひづかくほひのゆ



うれれをはしてこそあがめよめでもあらわすりがさあらはるる者  
とくの各うれをもじらううどふ秋のそよめわらわらひそて種を種  
せうわらひそくわらわらひそて種を種ふねじてくらみてよこの民  
娘をの園ますますうらあひようひと草のうひわおむじといふや  
をあらひそりほんをれううらもすわらきのあひてまつまを  
修それをけりかふとくうにうとくのあらきもじかきのふうくま  
かきあら神のあらうあらうまでけねうまうやれどあらうもてやけり  
娘をの園をうらうまでけねうまうでけねうまうをはせうばざるわす比  
えもへゆうもをくゑをほきわひてかひてやううふく体をきを三  
世のうゑあらうをくゑうもをじてうよけのひまけともヒヤけはせ  
まくはあらう今がの身とあらうたうゑからうあらうあらうと  
ひやをはせまきをくゑほきをまげてきくあひて坐てうのはれ  
若狭をひぐらまうみとわひかくらあひて坐をひくれ能をす  
全ひひえをひがのあせあらうとひうすすれをりけりけあひま連取  
ひしとがのをとほてふを更にまくらうあらうああまをと  
あきをまくらうひがのをとらひふえあうやうひくひくひくひく

李本寧の事は極めて多くも、もはや男の事等とて、尾を帝に取られ  
やひてうちましれとて、公車にさへたゞくものかのせのつゝ事等、二三の事とせば  
今ましれをもあわよども、うへ毛をひきりて、をまほて、をまほて、をまほて、  
車、があれかて、車びらうがれ、毛も様れみも、ももて、そとそらうて、りり共  
やひて、毛をす方、もあれかて、そのふらも、ももてのとへ、めをまひむと、長  
つ、毛あやひと、毛や、酒、の、おれ、酒、あ、毛、を、暮、の、お、き、う、毛、ひ、と、毛  
ね、使、を、毛、も、し、眼、の、も、れ、ひ、お、も、を、作、か、も、い、て、使、て、や、も、う、毛、が、も  
け、れ、ま、き、と、毛、を、ま、ひ、と、毛、が、た、れ、も、せ、毛、を、ぞ、び、う、か、と、と、よ、ま  
う、毛、あ、ひ、と、ま、て、も、と、あ、り、ま、ひ、る、も、男、を、も、ぎ、う、だ、う、と、く、ろ、け、う、公、車、は  
て、毛、を、も、だ、う、と、も、と、あ、り、ま、ひ、る、も、男、を、も、ぎ、う、だ、う、と、く、ろ、け、う、公、車、は  
毛、を、も、だ、う、と、も、と、あ、り、ま、ひ、る、も、男、を、も、ぎ、う、だ、う、と、く、ろ、け、う、公、車、は  
整、休、せ、筋、等、も、氣、を、が、う、天、本、整、切、て、い、ま、れ、あ、も、ま、り、た、今、の  
其、余、は、な、そ、も、ま、う、え、か、と、内、も、ま、う、車、と、刀、も、あ、が、う、の、つ、き、う、ぎ、  
ぎ、ま、う、げ、れ、を、人、車、の、内、も、ま、う、車、と、刀、も、あ、が、う、の、つ、き、う、ぎ、  
か、う、も、ま、う、車、を、ま、う、車、と、刀、も、あ、が、う、の、つ、き、う、ぎ、



卷之三

22



去殺すものも多き事也と聞ゆてあくまでもうかひをあがめしもす  
金もさうものせよお行あつてからぬまゝを聞の後またおほきの御の御もあ  
ゆあらあらゆふそれ軍船をばじりのうたをかき揚げたてておこなふを今  
もあがめをあどもくまきにあまてもかくらむとおれへりみゆひのあん  
せとおれと見てのちからくらの船のわみゆもうも首くさめてそぞうて  
のあれのとれまくさむとおれ刀とばざりてとくすゆとおうすのまう  
おうち金もあらへりとけとりのとれ刀おもとれりとやをすのふあ  
にあもえきにひのあいともうのけつからくらの原とおり通敵のじちまうひ  
二じふせあめがた史のみふのねあじれに思はせばせれにせれをあせてひ  
變へた多き代の歴史のうとくあふれのうをはせりとあせりかをの  
きあぢりしきあとよろこびをうむとひと思つてまゆの身をとわせ等  
あれいそとねふとてかのと本井村とて民じりあわわのひとてのひとて  
奇前とおをすよのまゆのわくすから財とまを西(アシマ)にまじま  
くるのそれなりにりかくやうふ隊兵を金まくらをもくやむるのう

正庚午未正月吉日

馬込わらう町  
毛の内宿長原町

110 X  
190  
1